



## 高濃度ビタミン点滴療法を用いたがん治療

### ●がん患者の増加

厚生労働省が発表した2015年の日本人の平均寿命は、男性80・79歳、女性87・05歳と、日本は世界でも有数の長寿国です。しかし、だからといって健康国とはいえません。いまや日本では、二人に一人ががんになり、三人に一人がんで死ぬ時代です。

一方アメリカでは、一年間にがんが原因で死亡する人は約57・5万人で、ピークとなった1991年の215人から約20%減少しました。日本人のがんによる死亡数は米国の約1・6倍になります。世界を見れば、今がんで死亡する人の65%は発展途上国の人たちで、実は先進国ではがんが原因で志望する人は年々減ってきています。その中で日本は唯一、がんが原因で死亡する人が増え続けています。

### ●がんを予防するという認識の遅れ

なぜ日本でがん患者が増えているのか。それは近年、日本が長寿国となり、寿命が延び、がんになる確率が高い年齢層の人が増えているからともいえます。加えて、**食事や生活習慣**が急速に欧米化したという背景があります。

アメリカでは、1970年代から、各種のがんを始めとして現代病・生活習慣病の増加が問題となっており、国家プロジェクトとして健康のための栄養数値目標を設定、がん予防に効果的な食べ物への作用の研究を進めました。そしてがんで死ぬ人の数は徐々に減ってきています。

また、日本はがん検診の受診率が低いという事実があります。検診で見つかる早期がんのほとんどは治ると言われています。しかし進行してから見つかった場合、がんによって命を落とす人が増えてしまっているのは当然のことです。日本はがん検診の受診率を上げていく必要があります。

### ●がんの標準三大治療法は正常細胞を痛めつける

現在行われているがんに対する標準治療には、手術療法、化学療法、放射線療法の三大療法と呼ばれるものがあります。しかし、抗がん剤を投与するがん細胞は次々に死んでいきますが、同時に正常な細胞にも影響を与えてしまいます。いわゆる抗がん剤の副作用で、髪は抜け、吐き気に襲われ、白血球が減り免疫力が激減する等、強い毒性が現れます。しかしがん幹細胞が生き残っている限り、再びがん細胞を生み出し、それがまた増殖し再発するのです。本当に治療すべき標的はがん幹細胞です。

このがん幹細胞を攻撃し、がんを消滅させる治療の開発、新薬の開発が進められています。しかし、新薬の登場を待つにしても、それまでの間がんが転移、再発しないようフォローを続けながらがんを上手に付き合い、共存していく必要があります。そのために様々な情報を集めなければなりません。

### ●高濃度ビタミン点滴を中心とした注目のがん治療

アメリカでは十数年ほど前から、統合医療のがん治療法の一つとして高濃度ビタミン点滴療法が行われるようになりました。ビタミンはがんを抑制し、QOL（生活の質）を改善することが一般的に広く知られてきたのです。

高濃度ビタミン点滴療法は、手術のように皮膚や臓器を切ることもなければ抗がん剤のような辛い副作用もありません。一時間ほど体を横たえて点滴を受けるだけでがん治療ができる、患者さんにとってはこの上なく楽な**低侵襲治療**です。これは体に負担をかけない天然の抗がん剤と言ってもいいでしょう。

### ●天然成分の抗がん剤とは

天然の成分の中の薬理作用に期待して病気を治す、その典型がビタミンです。がん細胞への殺傷効果があり、増殖因子を阻害し、免疫系を刺激して免疫細胞を活性化する高濃度ビタミン点滴は天然の抗がん剤です。ビタミンはがん細胞を殺すだけでなく、QOL（生活の質）を上げる働きがあるので、がんになったときの**基礎治療として大事な役割を果たす**でしょう。

生命活動の維持に必要な栄養素のビタミン、体内で起こる様々な化学反応を助け、された順にA、B、C、Dと並びつづけられました。ビタミンは水溶性なので、多少摂り過ぎても必要分は出て行きます。がん治療のために大量に摂取しても、体内に蓄積して問題を起す心配はほとんどありません。

### ●なぜビタミン点滴をただ投与するだけでは効果が出ないのか

治療に使ったビタミンの量は、一回あたり500〜1000gという大量投与です。1センチ500〜5000個分にも相当する量のビタミンを口からではなく直接点滴で静脈に投与することで血中の濃度を大幅に高めることができます。

ビタミンの血中濃度が高まると、その成分は血管の外に運ばれ過酸化水素という活性酸素を大量に作り出します。健康な正常細胞は元々過酸化水素を中和するカタラーゼという酵素を持っているので影響はありません。しかし、がん細胞はこの酵素をほとんど持っていないため、この活性酸素ががん細胞に取り込まれると細胞の機能が大幅に押さえ込まれ、細胞死に向かうのです。

高濃度ビタミン点滴療法は、早期がんから進行がん、再発・転移がんに至るどの段階のがん治療にも導入できます。しかし、がんが見つかった時点ですぐにビタミン点滴療法を始めるのが理想的と言いつ医師もいます。この治療は併用する他のがん治療の効果が高め、また長期にわたって治療を続けても効果が減弱することはありません。がん治療は早期に確かな治療戦略の判断ができるかどうかで予後の経緯が大きく左右されるため、まずは高濃度ビタミン点滴療法法の存在を知っておくことが重要です。

### ●三大療法と併用し、全てのがん治療の基本療法に

高濃度ビタミン点滴療法は、抗がん剤との併用で、抗がん剤の効果の増強が期待できます。2014年にカンザス大学では、抗がん剤を使用しているがん患者にビタミン点滴療法を併用したところ、抗がん剤の副作用の訴えが三分の一になったと報告しています。ビタミン点滴療法は他のがん治療と組み合わせることもでき、もはや治療法がないと言われた後でも、体力や気力の維持を助けます。ビタミン点滴療法を続けることを希望を捨てず、自分らしく生き続けていくべきです。